



学力向上の重点

- 基本的な知識・技能を習得する
- 思考力・判断力・表現力等を育成する
- 主体的に学習に取り組む態度を養う

学校教育目標

- かがやく子
- ゆたかな子
- げんきな子

＜昨年度までの課題＞

- ◇国語では、「話すこと・聞くこと・書くこと」「言葉の特徴や使い方」の領域に課題がある。
- ◇算数では、「数と計算」や「データの活用」の領域に課題がある。
- ◇登校時刻や授業開始時刻を守ることができる。
- ◇「相手の気持ちを考えた優しい言葉づかい」に課題がある。

＜令和7年度埼玉県学力・学習状況調査の結果から＞

- ◇国語では「情報の扱い方、我が国の言語文化」の領域にや課題がある。
- ◇算数では「データの活用」の領域に課題がある。

＜本年度の課題＞

＜学習面＞

- ◇自分の考えを述べたり、その根拠を記述したりする問題に苦手意識を持つ児童が多い。

＜生活面＞

- ◇「話を聞き発表する」「整理整頓」に課題がある。

＜各教科の指導の重点＞

国語

- 関心のあることを話題として決め、自分の考えをノートに書く機会を設ける。

社会

- 事実や関連性に注目させ、資料を読み取るための基礎的な力を定着させる。

算数

- 具体物を操作したり、実際に活動したりして数量感覚などを身に付けさせる。

理科

- 観察、実験のポイントや何を調べるかという目的を児童がつかめるようにする。

生活

- ガイドラインの範囲内で、ペアやグループでの活動を取り入れ、相手を意識したまとめや伝え合う活動を取り入れる。

図工

- 鑑賞の時間を工夫し、深く見詰め感じ取る力や想像力を高め、独創的、総合的な見方や考え方を培う。

家庭

- 身に付けた基礎的・基本的な知識及び技能を生活で活用する力の育成をする。

音楽

- 「音楽的な見方・考え方」を児童が働かせることのできる学習指導。

- 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善。

- ICT の効果的な活用。

体育

- 全学年共通した補強運動を年間通して取り入れ、体力向上を図る。

- 体づくり運動を重点化し、多様な動きを経験させることができるようにする。

外国語科

- 意図的に指名することで、英語で考えや思いを伝える機会を充実させる。

道徳

- 教材への自我関与を意識的に取り入れた授業の実践、自己の振り返りを行う時間の設定をする。

特別活動

- 学級会等で自分の考えや思いを発表し、話し合いで折り合いをつけることを経験させ、集団としての意思決定の時間を確保する。

総合的な学習の時間

- 収集した情報や体験した内容を、自分の言葉でまとめられるよう、考えを深める時間の設定をする。

外国語活動

- 学んだことを活用し、自分の思いを書いたり、発表したり、まとめたりする時間を設定する。

◆授業改善の3つのポイント◆

- ①見通しと振り返りのある授業
『めあての明示・板書の工夫』
- ②体験的・問題解決的な学習
- ③言語活動の充実と ICT 機器の活用

① 計画に基づく指導の実践

- ・基礎基本の確実な習得と活用する力を育てる授業の構築
- ・各教科等における基礎・基本を重視した授業の実践
- ・思考力・判断力・表現力等を養うための言語活動の工夫
- ・習熟と確かな学力の定着・家庭学習の習慣化

PLAN

② 課題を改善するための計画

- ・学習状況調査等を基にした指導計画「授業改善ベーシック」の確実な実践指導方法等の立案
- ・校内研修を中心とする授業研究
- ・保護者、地域への学習内容の周知（懇談会・学校便り・家庭学習の手引き）
- ・学力向上プランの作成

DO

③ 実態の把握

- ・学力の多面的な実態把握
- ・学力調査等による児童の実態の把握
- ・学校評価（内部評価・学校関係者評価）による本校教育活動の成果と課題の把握
- ・学校のきまりの分析と改善

CHECK

④ 課題の絞り込み

- ・新たな課題の確認と分析
- ・次年度の教育計画、全体計画、年間指導計画への位置づけ
- ・学力向上プランの見直し修正
- ・校内研究体制の見直しと充実
- ・学校評価による課題の分析
- ・ICT を活用した授業改善

ACTION

＜各教科の課題＞

国語

- 目的に応じて理由をあげながら自分の考えを文章に表すことに課題がある。

社会

- 地図や地球儀、統計、図、年表などの各資料を読み取ったり、活用したりすることが不十分である。
- 結論を導いたり、自分の言葉でまとめたりすることに課題がみられる。

算数

- 「数学的な考え方」に課題がある。

理科

- 「科学的な思考・表現」に課題がある。
- 授業で自分の考えを、周りの人に説明したり、発表したりすることに苦手意識がある。

生活

- 体験したことを記録・発言・作文等にまとめたり、発表したりすることが苦手である。
- 生活体験に差が見られる。

図工

- 技法や技能を定着させ、活用する力が必要である。
- 自分の思いを表現することに苦手意識がある。

家庭

- 生活経験に差があり、学習を始める時点で個人差が大きいことが課題としてある。

音楽

- 「音楽的な見方・考え方」を児童が働かせることのできる学習指導。

体育

- 体力テストの結果から、「投力」「握力」に関しては改善が必要である。
- 外遊びをする児童が少なく、習慣化されていない。

外国語科

- 外国語を話すことに苦手意識があり、自信をもって声を出すことが難しい児童がいる。
- 自分の考えや思いを英語で伝えようとすることに苦手意識がある。

道徳

- 道徳的価値の理解はできているが、実践力に結びつかないことがある。
- 自分に自信がなく、自己肯定感が低い児童が見られる。

特別活動

- 自分の考えや思いを全体で発表することが苦手な児童が見られる。
- 折り合いをつけて、集団としての意見をまとめる合意形成に課題がある。

総合的な学習の時間

- 収集した情報の表現方法の工夫や、発表活動の積極性に課題がある。

基礎的基本的内容の確実な定着

校内研修の充実

個に応じた指導体制の充実

家庭・地域との連携